



日本遺産
JAPAN HERITAGE
京都物語

由木中央小

あなたの
お話を
お聞かせ
ください
八王子

令和7年4月28日
学校だより 第2号
八王子市立由木中央小学校

教育目標 「すんで学習をしよう」「あったかい心をもとう」「じょうぶな体をつくらう」

HP アドレス <https://hachioji-school.ed.jp/yugce/>

校長 松山 大作

未完成だからこそ、可能性は無限大！

校長 松山 大作

子どもたちを教育する際に気を付けなければならないのは、早い段階から完成形を目指してしまうことだと思っています。急いで完成させようとするあまり、決まった型に無理にはめ込もうとしてしまつては、いつか思わぬ形で無理が生じてしまうかもしれません。むしろ、「未完成だからこそ、可能性は無限大！」として、子どもたちの内なる可能性を信じ、大樹へと育つための根を張ることこそが、最も重要なことではないかと思うのです。

子どもたちは本来、「伸びよう！」「成長しよう！」という生命の勢いをもっています。その姿は、まるで新緑の若葉がすくすくと成長していくようで、新しいエネルギーに満ち溢れていて、眩しい限りです。しかしながら、成長していく速さは決して同じではありません。一人一人大きく異なります。すぐに伸びる子もいれば、じっくり、ゆっくりと伸びていく子もいます。それは、子どもたちそれぞれに、その子だけの個性があるからです。その多様な個性を一つの型に入れてしまおうとすると、持ち味であるよきまでも壊してしまいます。大切なことは、子どもたちが自ら伸びようとする主体性を引き出し、それぞれがもつ個性と創造性を伸ばしていくことだと思っています。

子育てには、「こうしたらうまく育つ」という教科書はありません。学校でも、家庭でも、その子の性格や特徴をよく理解し、それに合わせて粘り強く接していくしかありません。仮に、今思うような成績がとれなくても、上手にできないことがあっても、将来どんな素晴らしい人材になるかは分かりません。したがって根本は、子どものありのままを受け入れ、心から信頼していくことだと思います。その中でこそ、子どもの個性や才能は大きく開花していくと信じています。

子どもを育てていく中では、思いどおりにいかないことがたくさんあるかと思っています。しかし、一時の感情に任せて厳しく叱るあまり、子どもの心を深く傷つけてしまうことは、可能性の芽を摘んでしまうことであり、あってはならないことです。子どもたちに対しては、その未完成な部分を受け止めるゆとりをもちながら、温かく接していかなければならないと考えています。

新緑の若芽が伸び伸びと成長するためには、日光と水が必要です。それと同じように、伸び盛り子どもたちには、「励ましの言葉」と「信頼を寄せる声掛け」が不可欠です。子どもの可能性を信じる愛情の深さの分だけ、若き大樹は伸び伸びと、たくましく根を張り広げていくに違いありません。小さい完成形に収めることなく、「未完成だからこそ、可能性は無限大！」と、大きく育てていきたいと思っています。

保護者、地域の皆様方には、引き続き、温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



伸び伸びと育つ中央小の子どもたち

地区別集団下校について

日時 5月30日(金) 13:55 下校開始

- 年2回の訓練です。災害時や不審者徘徊時に、児童の安全のために、地区別集団下校を行う場合があります。
- 当日、習い事等に通う児童については、集団下校し、一度帰宅してから向かうようにしてください。
- 学童をお休みして自宅へ下校する場合は、連絡帳で学校までご連絡ください。その際、学童と親班長さんへもご連絡ください。(計3か所への連絡をお願いします。)

教育実習について

5月12日(月)から30日(金)までの3週間、教育実習生が1名、3年2組に入ります。大学で学んだ知識をもとに、学校現場で子どもたちと関わりながら、教員として必要な力を身に付けていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

